

ホーム名：くみのき苑グループホーム千寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	

I. 理念に基づく運営

1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>認知症であっても、地域の中で当たり前で暮らせる様に支援する事を理念とし、年度始まりには各ユニット会議にて理念や目的を伝えて、日々のケアに繋げてもらう様に指導している。</p>	<p>「認知症であっても、一人ひとりが地域の中で当たり前で暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていく」を理念に掲げている。各フロア入口には “いつも一緒に” のスローガンが掲示され、より具体的な姿勢を示し実践につなげるよう取り組んでいる。</p>	<p>「ホームの理念・目的・原則」を、各ユニット会議や運営推進会議の議題に組み入れ、周知を図っている。今後もいろいろな場面で理念が実践につながるよう、取り組んでいかれたい。</p>
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会に加入し、地藏盆等の催しにも参加している。他にスーパーや美容院など、近隣の店を利用している。</p>	<p>自治会に加入し、会合への出席・公園や会館の掃除・夜警・地藏盆や神輿引きなどの催しに職員が参加している。今年からは、老人会の会合にも参加。公園やスーパーなどでは、地域の方々が入居者に気軽に挨拶をして下さる。</p>	<p>事業所は地域の一員として会合への出席や催しに積極的に参加している。今後も近隣のスーパーや店の利用などは是非続けて頂きたい。地域のボランティアを受け入れて、入居者の喜びそうな余暇の過ごし方も検討されてみては如何か。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>河内長野市の認知症コーディネーターとして、管理者と副主任が地域の講演会やキャラバンメイトの活動に参加している。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を4か月に1回実施。自治会役員、市職員、包括職員、家族も毎回参加されている。外部評価の報告や実際の取り組み内容等を伝えたり、入居者の日頃の様子も伝える。また、家族より意見が出やすいように、グループに別れ、話をする機会を作っている。</p>	<p>自治会より会長・副会長、市職員、東部地域包括支援センター職員、家族5～9名、事業所職員数名の参加で4か月に1度開催されている。年度初めには前年度行事報告・本年度行事予定を盛り込み、“認知症の勉強会” “ホームの理念・目的について”などもテーマとして取り上げている。家</p>	<p>日曜開催にも拘らず、市・包括職員も参加下さっている。4か月に1度の開催は市からの提言によったとの事。より内容の濃い充実した会議となるよう期待する。市のケアネット会議(グループホーム部会)の会員にも参加を呼びかけ、互いの会議に出席し合うのもよいのではないか。</p>
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>何かあった場合や相談したい事などあれば、市の介護高齢課に連絡を入れている。また、運営推進会議への参加も依頼し、市のグループホーム部会に参加した際にも、意見交換を行っている。</p>	<p>市の職員には運営推進会議への参加を頂き、また、事業所職員は月に1度は市へ足を運ぶなど、常日頃から連絡を取り合い協力関係を築いている。市や包括から困難事例の受け入れ相談なども寄せられることがある。</p>	<p>市職員は運営推進会議やグループホーム部会へも出席下さり、協力的である。今後も密に連絡を取り合い、協力関係を維持されたい。</p>
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>エレベーターは自由に昇降できるが、グループホームの玄関は、前が道路の為、安全対策によりオートロックになっている。入居者が外出を希望された際は、すぐに職員が対応し外出してもらう。また、身体拘束の禁止についても、その都度、資料や会議にて身体拘束について説明を行い、周知する様にしている。</p>	<p>会議でも取り上げ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ホーム内ではエレベーターで自由に行き来が出来る。入居者の身の安全を図る為に無線ベッドセンサーを使用(個人購入・3人利用)し、身体拘束のない支援を行っている。</p>	<p>安全対策の為にグループホーム玄関は施錠されている。施錠があたり前になっていないか、また職員が正しく理解した上での施錠になっているのか、その他具体的な行為に対しても今一度職員間で再確認してみられたい。</p>
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待など新聞記事や情報があった際、全職員に回覧し掲示している。また、現場の職員の対応なども、その場で常勤から職員一人ひとりに説明を行う。定期的に常勤が現場の対応を見直し、ユニット会議にて話し合い説明を行っている。</p>		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関する制度についての資料を回覧し職員が周知する様になっている。また、手続きをされている方については、経過の報告等も各職員に行っている。</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>その都度、家族に何か質問等はないのか確認をとっている。また、家族からの意見が多く挙がったものについては、運営推進会議でも、再度説明するように努めている。家族が不安や疑問があれば、いつでも連絡頂くようにを契約時などに伝えている。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関と各階に意見箱を設置している。口頭で意見や要望を聞く機会が多く、随時記録に残し、上司に報告、相談し早急に対応出来るように努めている。</p>	<p>各フロア入口に「意見箱」が設置されているが、要望や苦情は電話や面会時に直接口頭で寄せられる。家族が来苑する機会が多く、洗濯の仕方や掃除など改善に向けた事例もある。</p>	<p>運営推進会議への出席も多数あり、そこでの意見交換も活発である。今後も家族の協力を得ながら、より質の高いホームを作り上げていって頂きたい。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>現場の職員から意見を聞く機会を設けている。出た意見は上司に報告し、改善に向け取り組んでいく。</p>	<p>月2回のユニット会議を持ち、意見や要望を聞く機会としている。リーダーが中心となって日頃の支援に対しての悩みや対応について話し合い、改善に向け取り組んでいる。</p>	<p>ケアカンファレンス(2名分)を含めた1時間の会議である。ユニット会議の中だけでなく、職員は日頃から提案や意見・要望の表出に努め、それらを反映させながらより質の高いケアに取り組んでいかれたい。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課制度を取り入れ、ひとりひとりの評価を行い、賞与に反映させている。職員と話した際に出た意見を基に、業務改善を行うなど職場環境を整えるように努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修に各職員が参加できる機会を設けている。研修にて得た知識は、ユニット会議等で全職員に伝えていく。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム部会を通じて、他事業所との職員の交換研修や、勉強会を行い、交流や意見交換の場を作っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居するまでに施設の見学をして頂く機会を設けている。本人が不安を感じている場合、時間をかけ安心して頂ける様に本人や家族と話し合える機会を持てるよう努めている。その中で、聞くことが出来た内容については、どう対応していくのか説明していくように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>施設の見学をして頂く機会を設け、グループホームでの普段の生活を見て頂き、家族の困っている事や不安、要望などを聞きだせる様に時間をかけ話し合える機会を持てるよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>話し合いの中でコミュニケーションを図り、本人や家族から希望や情報をもらい、今の入居者の方の生活状況で気付いた事や必要な事はセンター方式に記録し、家族や本人の意向を第一におき支援できる様に心がけている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者の方自身が出来る事を見極め、入居者と一緒にする様に心掛けているが、忙しい時など一方的な支援になり、職員側からお願ひするばかりになっており、入居者の方の思いは考えられていない事がある。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時、職員から声を掛けさせて頂き、入居者の方の状況を伝えるとともに、気軽に訪問、安心してもらえる雰囲気作りを心掛けている。その中で、両者の思いを伝えながら職員が理解者となれる様に努めたい。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居者自身の理解度、家族の意向もあり、馴染みの関係の継続は難しい事もある。家族に相談した上で、可能な限り友人などの面会には応じている。また、美容院やお墓参りなど本人の馴染みの場所には出かける様に努めている。</p>	<p>過去利用していた美容院や眼科医院に引き続き通うことを支援している。可能な限り、馴染みの場所への訪問を支援している。会社の同僚や部下の方、教え子など多くの方が来苑下さっている。</p>	<p>今後も可能な限り、馴染みの人や場所への継続支援をお願いする。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>リビングやE.V前に、ソファを置き、共有空間の中に入居者同士で自由に過ごせる居場所を確保している。また、関係の悪い入居者間には、適度に職員が介入し、関係作りに努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所時に、何かあればいつでも相談頂ける様に声をかけている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員の経験、知識不足から思いや意向の把握が十分とは言えない。入居者の思いや希望は、普段の関わりや入居者から訴えがあった時などで知る様にし、入居者本位に検討出来る様に努めたい。</p>	<p>リーダーは、普段の支援の中で思いや意向の把握に努める様職員に指導しているが、職員間に差があり、十分には出来ていないと感じている。</p>	<p>如何に入居者一人ひとりの思いや意向を汲み取るか、が問われる事である。1対1で向き合える入浴時や散歩時を絶好の機と捉え、会話や“気づき”などの中から思いを汲む努力を培って頂きたい。</p>
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>面会時に家族からの情報提供をお願いするとともに、入居者の方からも情報を聞き、センター方式に記録、ユニット会議で話し合う機会を作り、職員間で情報を共有し把握する様に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>入居者のペースで生活してもらうのではなく、職員のペースに誘導してしまっている事が多い。入居者の状況を把握し、関わりを持つ様に努めていきたい。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>事前に入居者及び家族の意向を聞いた上で見直しや気づきを職員から出してもらい、月2回ユニット会議の中でカンファレンスを行い、作成している。また、状況に応じて随時見直しを行っている。</p>	<p>月2回のユニット会議の中でカンファレンスを行い、作成している。見直し期間を5か月とし、状態によっては随時行っている。家族には来苑時に確認して頂き、来られない方には電話で報告し、後日郵送で確認印を頂いている。</p>	<p>普段から入居者をよく見る事が介護計画に活かされる。職員並びに本人や家族・医師・看護師などの意見や希望が反映された介護計画となるよう、期待する。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別にケアの内容は記録に記入するようにしているが、職員の能力や価値観の違いで必要な事柄が記録しきれておらず、介護計画の見直しにまで活かされていない。その為、記録の必要性をしっかりと伝え、理解して記録出来る様に指導していききたい。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>法人本部の行事に参加している。法人の協力体制もあり、法人全体での対応を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事や本人の興味のある催しなど参加させてもらっている。職員の状況によって出来ない時もあるが、入居者が楽しめる様に支援していききたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族の意向をふまえて訪問診療希望の方は青山クリニックを受診してもらっている。それ以外の方は本人と家族が希望される病院を受診。他の医療機関の場合でも受診の送迎、付き添いを行っている。</p>	<p>訪問診療を希望される方はかかりつけ医を青山クリニックとしてもらい、青山クリニック(内科)とくみのき苑診療所(精神科)の訪問診療をそれぞれ月2回受けている。また、協力歯科医による訪問受診を週1回全入居者が受けている。青山クリニック以外の受診時には、個人個人の「受診マニュアル</p>	<p>高齢者は健康状態が急変することが多々ある。受診の経過記録を残すことの継続を願う。常駐看護師の記録する「医療日誌」も、受診時には活用されたい。</p>

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師が月曜日から金曜日まで常時おり、日常の関わり中でとらえた情報や気づきを相談し、適切なアドバイスや受診の指示等をもらい、必要に応じて受診できる様に支援している。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中は家族の方から情報提供して頂き、家族を通して病院関係者との関係作りに努めている。また、病院とのカンファレンスにも家族の同意を得て参加させてもらい、退院後、入居者が安心して過ごせる様に受け入れ時の対応なども伝えている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ADLの低下や日々の体調の変化については、家族の面会時に伝えている。その折に重度化や終末期の迎え方についても家族の希望を聞きながら、上司に報告し相談しながら、出来るだけ家族や本人の意向に副えるようにしている。しかし、医療との連携が難しくグループホームとしての出来る範囲を家族に説明し理解を得ながら支援にあたっている。</p>	<p>重度化した時の対応は、入居開始時の説明で十分伝えている。入居者の体調変化が生じた時は、職員・家族・病院と話し合い対応を検討している。が、医療との連携が難しく、グループホームとしての出来る範囲を家族に説明し、理解を得ながら支援にあたっている。過去に1人、家族の要望もあり看取りを経験している。</p>	<p>「くみのき看取りに関する指針」を作成済み。本人・家族・医師・職員が方針を共有し、意向に副った支援に取り組まれている。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時や急変時の緊急対応については全体会議やユニット会議などで説明している。また、重大事故の発生があった際にも必ず全体会議やユニット会議にて問題点や見直しの必要な事など説明し話し合い、緊急マニュアルを整備するとともに、周知徹底を図っている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て、年に2回避難訓練を実施している。消火器の使用方法や避難方法の再確認をしている。</p>	<p>消防の協力の下、消火訓練と自主訓練を年2回(5月・11月)実施している。災害時には法人本部と連携をとるようにしており、災害備蓄品も本部で備えている。停電用自家発電機を設置。全室スプリンクラー付。</p>	<p>災害が起こった時には冷静な対処が求められる。その為にも、様々な場面を想定した訓練が必要である。本部に備蓄品確保があれども、飲料水等最小限の備蓄は各ユニットでしておかれています。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いも含め、人格の尊重を理解し対応のできる職員が少ない。プライバシーを尊重し、人格を損なわない言葉かけや、敬意を込めた態度で接する様に説明し指導の徹底に努めたい。記録等の個人情報情報は保管庫にて施錠し管理している。	人格の尊重・プライバシーの研修指導が行われ理解を深めている。実際の対応では出来ていないこともあるとの事だが、家族アンケートでは信頼を得ている。ホームページ写真掲載に関しては、掲載承諾の可・否を文書にて得ている	入居者が自信を高めるような言葉掛けや働きかけをすることで活躍の場をつくり、喜び合い感謝しあうといった循環ができればいいと思う。各職員、心掛けた対応をお願いする。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに時間をかけ、自己決定出来る様に支援できず、職員の決めつけた対応になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の一人ひとりの生活のペースに合わせるのではなく、職員側の業務の中で、入居者の生活をあてはめてしまっている事が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	最近、少しずつではあるが髪を梳かす事が習慣づけられてきた。しかし、衣類の方は、本人に選んでもらうのではなく、職員が選んでしまっている事が多い。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備から調理、片付けまで入居者と一緒に行い、味見をしてもらったりする様にしているが、職員のペースになっている事があったり、一部の人にしか振れていない事がある。全員で食事を楽めるよう工夫をしていきたい。	各ユニット毎に献立を作っている。リビングの大きなテーブルにカセットコンロを置き、皆で一緒に料理を作っている。固いものなど小さく切ったり、とろみをつけたり配慮している。自分たちで育てた野菜を食べることもある。職員も同じテーブルにつき、入居者と同じ物を食している。	皆で一緒に作ることは、五感刺激や食べる楽しみや意欲を増すなど長所も多いが、入居者や職員の負担はないか？食事作りに多くの時間を割き、余暇活動他の支援が疎かにならないように願う。経費はかかるが、たまには外食なども企画されては如何か？
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	全職員15日分ずつ献立表を作成し、和食を中心に野菜を多く摂取出来る様工夫するよう説明しているが、職員の嗜好により傾いた献立になってしまっている。一日の食事摂取量や水分摂取量はケースに記録し把握、水分量は、食事時を中心に、無理のない摂取を心掛けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の状況に応じて、毎食後、声掛け誘導、一部介助を行う様指導しているが、職員一人ひとりの意識の違いが有り、日々徹底されていない。自立されている方は、自身で歯磨き、うがいをやっている為、口腔ケア後の確認が十分出来ていない。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的に声掛けさせて頂くなど、トイレでの排泄や、自立に向けた支援を行うように支援しているが、入居者が拒否をされた時など、対応が出来ていない。	日中、夜間の状態を観察し、一人ひとりの排泄パターンを把握。その上でその人に合わせた支援・介助をしている。6割の方が一部介助を必要としている。排便に関しては、下剤を使用することもある。	排泄への自立は誰もが望むところである。入居者の思いを汲み取りながら、支援を継続して頂きたい。自立している方が今後も長く状態を維持できるよう、括約筋強化のトレーニングを取り入れるなどして自立に向けた支援の継続をお願いする。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響についての理解は職員によって違いがある。食事には和食を中心とし、野菜を多く摂取する事で食物繊維をとれる工夫をする様に心掛け、水分も定期的に提供している。また、生活の中で適度な運動を取り入れながら、便秘になった場合、看護師に相談対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	昼食後から夕食後位まで、入浴出来る様に準備をし、間隔のあいている方から入浴を誘うようにしている。時間・状況に応じて本人の希望に合わせてくれる様にしている。	入居者の希望に合わせた入浴方法で支援している。入りがらない人にもシャワー浴や足湯(清拭)など、状況を見ながら工夫している。各自、体質に合った好みの入浴用品を使用している。複数での入浴希望があった時は、1階・ディの大浴槽を夕方借りることもある。入浴の無い日は、就寝前に	入浴は血行も良くなり、リラックスにもなるので、喜んで入る工夫を継続されたい。入浴時は入居者と1対1で触れ合える貴重な時間である。体の変化や様子にも気を配りながら、楽しい一時となるように支援をお願いしたい。

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事スペースだけではなく、ソファを設置したり、入居者の休息できる場所を作っている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療用ファイルの作成や個人の薬管理用袋に服薬品名、時間、効能を記入した手書きの用紙を作成し入れて、職員が確認できるようにしているが症状の変化についての気付きは低い。与薬後の体調変化は、速やかに看護師に相談指示を仰ぐ様に指導し、薬についての説明理解してもらえるように努めている		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランに取り入れながら支援しているが継続的に行えていない。		
49 18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望があれば買い物や散歩など外出できる様にしている。散髪や墓参りなどは職員の状況や時間の関係で計画的に取り入れる事が多くなっている。ただし、本人の希望があれば、早急に対応できるように日時の調整をしている。	入居者の希望により、買い物や散髪に行ったりしている。散歩は職員1人に対し、1～2人歩幅の同じ位の人と行く事になる為、日常頻繁に行く事はない。行事として、初詣(錦織神社・多治速比売神社)・花見(寺ヶ池公園)・河内長野グループホーム入居者交流会・法人所有のみかん園へ行ったり、家族を交えた遠足(花の文化園)を	外出は、わずかな時間でも五感刺激や気分転換になる。散歩など、日常的な外出が増える様取り組まれた。ホームページでは、季節のお出掛け時の楽しそうな様子が伺えた。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族へ説明し、希望があれば金銭の所持を自己管理にて行って頂いている。その方には、買い物時に所持金の中から支払ってもらっている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者からの手紙はポストに投函出来る様に職員が付き添って行ったり、家族や他からの書簡は、遅滞なく入居者の元へ届けている。電話の要望があれば、ご本人が電話して頂ける様支援している。		
52 19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングなど入居者の手作りの作品で飾ったりしているが、季節感を取り入れたり、居心地よく過ごせる環境づくりを検討していきたい。	大きな窓から光が射し込み、広々として、開放感がある。各ユニット毎に椅子やソファ等の配置は異なり、数か所の安らぎの場所を用意、選べる環境づくりとなっている。入居者の過去の作品(習字・絵画・手芸)や皆で作った作品を飾りつけている。野菜を育て、その写真をもとに新聞を作っている。様々な写真が壁に貼ってあり楽しい。共有空間の清掃は夜、夜勤者がほうき・ワイパーを使い行って	リビングに時計やカレンダーはあったが、昔を思い出すことで元気になること、皆の共通行事(東京オリンピック関連グッズ・万博など)懐かしいものもあればいいと感じた。清掃に関しては、今は便利な床拭きの用具が出ているので、衛生管理をする為にも参考にされては如何か?リビングに接している和室の有効利用を考えられたい。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	E V前にテーブルやソファをおき、入居者がいつでも、くつろげる空間がもてる様にしている。		
54 20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が以前使用されていた家具など持参して頂ける物があれば、家族に協力を依頼し使い慣れた物を居室に配置している。また、入居後も、個人の嗜好から写真を掲示したり、工夫している。	苑から本人へのカード(卒寿・クリスマス)が一番目につくところに飾ってあった。日中ベッドにいる利用者はリビングの向いの部屋で扉を開放し、同じ空間にいる雰囲気を作っている。居室の清掃は、週1度専門業者がリネン交換時に行い、その他職員が入居者と随時行っている。	犬と写っている入居者の女性に犬のことを聞くと、「オー」と声をあげ、嬉しそうであった。入居者にとって自分らしくふるまえるような思い出の品や、心の拠り所となるものを多くそろえたい。布団類は週1度を目安に各居室の窓に干している。今後も衛生に気を配り快適な安眠に誘いたい。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者のできることに對しても、職員が手を出してしまう事が多い。その為にも安全に配慮しながら職員の支援の仕方はどうするべきなのかを考え工夫していきたい。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいの ③職員の3分の1くらいの ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいの ③家族の3分の1くらいの ④ほとんどできていない